

JICA-SATREPS プロジェクト ベトナムにおける治療成功維持のための "bench-to-bedside system" 構築と 新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト

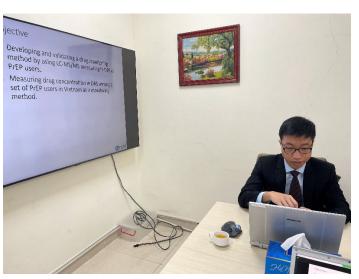


3年振りにベトナムに帰国したベトナム人博士課程学生を囲んでの研究報告会 (2023年1月16日)

日本では新年が明けたばかり、でもベトナムのお正月は旧正月なので、そのテト正月(1月22日)に向 けての年末押し迫った時期にあたります。そんな中、今まで5回実施してきたハノイ医科大学とのオンライ ンセミナーの特別編という形で、今回はプロジェクト Output2 の PrEP (曝露前予防内服) を巡る研究に関 しての内容です。テーマは、PrEP プログラムに参加して ARV (抗ウイルス薬) を飲んでいる人たちの血中に 実際にどれくらい薬剤濃度が保たれているかの測定方法策定の研究進捗と、今後の研究成果のベトナムで の活用の仕方に関するものです。



ドセミナーもすっかり慣れてきました



ハノイ医科大学に集まり、日本と繋げてのハイブリッ 3年以上振りにベトナム・ハノイへ里帰りの Hieu さん、博 士課程修了まであと少し、頑張ってくださいね!

テーマにもある「薬剤血中濃度」。そもそも予防のための薬がきちんと飲まれているかは、今のところ基 本的には利用者に「薬をちゃんと飲んでいますか?」と聞かないとわかりません。しかしその血中濃度が測 れれば、より科学的にきちんと内服がされているか(アドヒアランス)がわかり、万が一予防が上手くいか ずに HIV 感染が起きてしまった際にも、それが何の原因で起きているかが解明しやすくなります。そういっ た科学的根拠を以て、より効果的な PrEP に貢献していこうというのが今回研究の目的です。研究の途中経 過とこれまでの成果発表を受けて、ハノイ医科大学の参加者からは、ベトナムにおいて測定するにはどうし たらいいか、どのような機材が必要か、など強い関心が寄せられました。今回のセミナーは、日本での研究 がベトナムでも実践される良いきっかけになったと思います。

今回のメインスピーカーは、SATREPS プロジェクトが始まった 2019 年にこの研究を行うために熊本大学 博士課程に入学した Hieu さんです。日本へ渡った直後、ちょうど新型コロナウイルス感染症が猛威を振る い始めてしまい、なかなかベトナムへの一時帰国の機会が無く、今回3年以上ぶりにようやくハノイへ一時 帰国を果たすことができました。その間の日本での学業は、多くの人に支えながらも、コロナ禍の行動制限 の中での外国での生活ということで本当に大変だったことでしょう。短い期間ですが 3 年振りの家族との テト正月、エネルギーをしっかり充電して、博士課程修了に向けて頑張ってくださいねり